

現代も魅了する美濃桃山陶

美濃桃山陶の魅力は不均衡な造形、釉の色彩、斬新な意匠でしょう。日本古来の美意識を取り込んだ日本的な焼き物として、今なお人気です。

久々利の大萱で窯を築いた陶芸家・荒川豊蔵も美濃桃山陶に魅了された一人です。荒川は久々利の窯跡で志野陶片を発見し、産地を明らかにしたことで有名ですが、技法の失われた美濃桃山陶を再現することに生涯をささげ、志野と瀬戸黒の技術で人間国宝に認定されました。また、荒川の影響を受けて、久々利平柴谷に薪窯を築き、瀬戸黒の技術で人間国宝に認定された加藤孝造もまた、美濃桃山陶に魅了された一人です。

荒川豊蔵資料館と可児郷土歴史館では、国際陶磁器フェスティバル美濃'24の開催に併せ、人間国宝2人の制作に臨む姿を作品や資料を通して紹介します。



荒川豊蔵資料館の特別展
「豊蔵の志野・瀬戸黒ー美濃桃山陶への挑みー」
出品作品

学生とコラボ！

消費者トラブル防止啓発品を企画

問 産業振興課 内 2346

SNSなどの普及により多様化・複雑化する若者の消費者トラブルの未然防止や相談先の消費生活センターの周知のために、岐阜医療科学大学・可児高校の学生と協働し、若者向けの啓発品企画会を3回開催します。

どのような啓発品に、どんなメッセージを載せるのか、学生の視点で考え、3回目の企画会で選ばれた学生のアイデアを、実際に啓発品として制作する予定です。啓発品は市内の高校生に配布します。

8月6日に行われた第1回企画会には大学生29人、高校生5人が参加し、可児市消費生活センター相談員による消費者トラブルの説明や、教育用VR教材を活用し、若者に身近な消費者トラブルを体感しました。また、外部講師から効果的な啓発品の企画について学びました。

第2回(8月21日)、第3回(9月18日)の様子は広報かに11月号で紹介する予定です。



岐阜医療科学大学1年
左から間宮さん、丸山さん

騙されない
と思っていて
も、消費者ト
ラブルは身近
にあるのだな
と感じました。

